



慶應義塾大学ビジネス・スクール

小田尚子¹ —会社を辞めたい真の要因—

5

第一部 小田のキャリアと会社のリストラ

「会社を辞めたい。」

小田はここ1年くらい、ずっと自問自答していた。

10

小田尚子、38歳。一流といわれる私立大学の理系の学部を卒業後、外資系の日本法人「株式会社A-B-C ジャパン」で総合職として就職して早16年が過ぎていた。

人に話せば、そんなに恵まれた環境にいるのにどうして?と聞かれるのは目に見えていた。本人も贅沢な悩みかもしれないと思っていた。

15

小田のキャリア

たしかに小田はこの会社が気に入っていた。外資系特有のぎすぎすした雰囲気はなかっただし、日本的な終身雇用の雰囲気も自分にむいていたと思っていた。給料は平均的な企業に比べれば良かった。男女差別もなかった。

小田が就職活動をしていた当時はバブルの時代で、恵まれた世代であった。それでも女子学生にとっては楽な環境ではなかった。小田もなかなか内定がもらえず、大変な苦労をした。

20

「でもそんな中でこの会社にめぐり合えたのは、本当に運が良かったのだと思います。内定をもらったとき嬉しくて涙が止まらなかった事を今でも覚えています。」と話してくれた。

仕事はやりがいがあったし、充実感もあった。上司や先輩にも恵まれ、成果を出してきていた。

¹ 本ケースは、慶應義塾大学SFC研究所上席研究員（訪問）松澤佳郎が作成したもので、経営に関する適切あるいは不適切な処理を例示することを意図したものではない。
なお、ケースの内容は偽装されている。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 松澤佳郎（2008年4月作成）